

〇もち米の生産拡大、そしてもち加工で「まちおこし」

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	滋賀県甲賀市小佐治			
協定面積 26 ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲			
交付金額 206万円	個人配分			0%
	共同取組活動 (100%)	農機具購入及び修繕費		58%
		水路、農道、獣害防護柵維持管理費		38%
事務費、役員報酬等		4%		
協定参加者	農業者 35人、生産組織3、水利組合1、農業生産法人1			開始:平成17年度

2. 取組に至る経緯

水田のほ場整備が完了してから30年余り経過し、転作のブロックローテーションを導入しながら集落で協力を行い、荒廃させることなく今日に至っている

高齢化の進展と後継者不足により、年々水田の維持管理が厳しい状況のため、本交付金を活用し、営農組織、農業者等の連携を保ちながら、集落ぐるみで水田の保全に取り組み、集落農業の活性化を図りたい。

3. 取組の内容

小佐治集落の土壌は、古琵琶湖が創り出した豊富なミネラルを含んだ重粘土質土壌で、肥沃な水田に育まれたもち米「滋賀羽二重糯」は最高級の評価を得ており、市場での需要は高い。また、小佐治のもち米は、肥培管理の統一化を図り、「滋賀県環境こだわり農産物」の認証を得て、全量をJAに出荷して火力を使わない自然乾燥調製施設で乾燥調製を行い、小佐治専用の籾貯留槽に保管されたもち米を原料にもち加工をしている。

平成18年度には、念願の農業法人（有）甲賀もち工房（出資は集落協定の構成員）を設立し、小佐治で生産されたもち米のみを使用した「よもぎあん餅」、「薬草長寿餅」、「近江米めん」「米粉たい焼き」などの加工・販売に取り組んでいる。

第3期対策では、集落の水田を荒廃させないことを第一に考え、生産の拡大が望まれている小佐治のもち米の生産強化を行い、最高級の評価を得ている小佐治のもち米を活かした「まちおこし」を今後も推進していきたい。



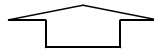
地域独特のもち米「滋賀羽二重糯」



米めんや米粉たい焼きなどの加工品

【集落の将来像】

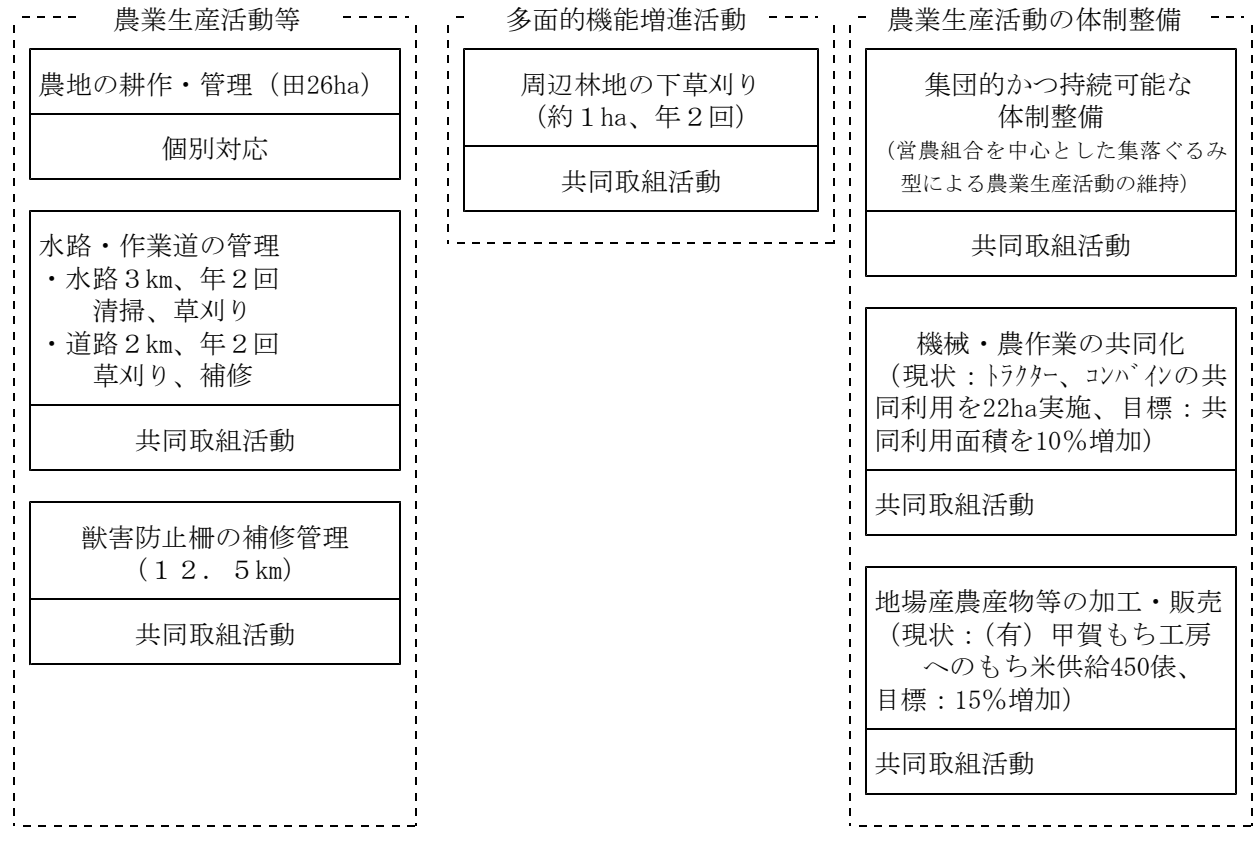
- 営農組織、農業者等が連携を図りながら、集落ぐるみで水田の保全に取り組み、集落農業の活性化を図る。
- もち加工・販売を手がける、もち工房ともちの生産を結び付け、6次産業化することにより新しくまちおこしをする。



【将来像を実現するための活動目標】

- 機械・農作業の共同利用面積を10%増加
- (有) 甲賀もち工房へのもち米供給を15%増加
- 農業の継続が困難となった農地が生じた場合に備え、サポート体制を確立

【活動内容】



4. 今後の課題等

第3期対策では、小佐治営農組合を中心に、もち米の生産量維持・拡大やうるち米の集団栽培の推進を図るためにも、共同機械の充実を図っていくこととしている。

滋賀羽二重糰は、長^{ちようかん} 稈で倒伏し易く転作跡地には栽培が不向きな品種のため、もち米栽培の拡大を図る上で、転作後も容易に栽培できる技術を早期に習得する必要がある。

また、営農組合を中心に集落内の生産活動を実施していく中で、定年帰農者を担い手として積極的に位置付け、営農活動を継続させていきたい。

【第2期対策の主な成果】

- 鳥獣害防護柵の設置 (12.5km)
- (有) 甲賀もち工房の設立 (平成18年4月)
- 小佐治集落によるもち米の集団栽培 (17ha)